

Naja tripudians インドコブラ [心臓の弁膜, 雨への恐怖]

Naja naja L.

BACK GROUND

Naja は、コブラ科のインドコブラで、その名の通り、インドからミャンマー、マレー、タイ、中国南部（主に海南島）、ベトナム、フィリピン、インドネシアに棲息する中型の猛毒のヘビです。地域により背中メガネ模様などが少しずつ異なります。体長1.8～2.2mほどで、毒蛇としては大形に属します。夜



(S)

行性で、森林地帯から農村地帯の水辺に棲み、小型哺乳類・トカゲ・カエルなどの小動物を食べ、比較적으로となしい性格ですが、怒らせると体の3分の1を持ち上げて頭と胸を膨らませ、独特のコブラの形で威嚇します。

水田のまわりにも棲みかをつくるため、農民が咬まれる被害が多く、素足の人が多いインドでは毎年1万人ほどが咬まれています。Najaの名は、サンスクリット語のヘビという意味に由来します。

毒はひと咬みで約100mg分泌します。その毒は、分子量約6,000の蛋白質で、アミノ酸の数にして約60の低分子化合物ですので、体内に入ると速やかに拡散していきます。毒液の組成は非常に複雑で、いまだに全容は解明されていません。

主な成分には、後シナプス神経毒、細胞膜毒、心臓毒、フォスホリパーゼA₂、アセチルコリンエステラーゼなどの各種酵素、スクレオチド、各種微量元素（亜鉛、鉄、銅など）があります。

毒性のメインは神経毒で、延髄の麻痺が特徴的です。

咬まれた場合、LachesisやCrotalus horridusとは異なり、出血毒はないために、最初、外見上は咬傷部位が軽く腫れる程度で、小さな毒牙の入った跡穴が見られるだけです。その後、咬傷部位の皮下は暗紫色になり、周辺部に粘着性の血様液体が浸出してきます。1時間ほどで、筋線維内のカルシウムチャンネルをブロックして、運動神経の麻痺を引き起こし、肢に力が入らなくなり、話したり嚥下したりすることが困難になり、唇の麻痺が現れます。多量の流涎があります。さらに進むと、横隔膜神経が麻痺して呼吸がゆっくりと遅くなっていき、停止して死亡することがあります。意識ははっきりとしています。

インドでは、アーユルヴェーダの医師たちが、このコブラの毒を神経系疾患や血液異常などの治療に使用してきました。

MATERIAL

インドコブラの毒

FIRST PROVING

毒蛇のプルービングで有名なHeringが、1837年に行いました。その後、さらに詳しく解明したのは、StkesとRusselです（『British Journal of Homoeopathy』第2巻、第4巻、第7巻）。

MIND

Najaタイプは、自分が不運だと思いがちで、些細なことでも大げさに、意味もなく問題にしてくよくよ悩む傾向があります。しばしば、悲しくなったり、心が乱れたり、ふるえたり、忘れやすくなります。全体的には、Lachesisを穏やかにしたような性格ですが、Lachesisに見られるような嫉妬や攻撃的な性格はもっていません。アルコールを飲みたがりますが、飲むと悪化します。朝起きるときや歩くときに、頭痛がすることがあります。Elaps同様、**雨に対する恐怖**をもっていることがあります。寒さに過敏です。

AFFINITY

Najaは、主に心疾患（とくに心臓の僧房弁膜）、小脳、大脳髄質、神経系（とくに心臓、呼吸器系）、卵巣などに親和性をもっています。左側優勢レメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

■心疾患

- ・心臓弁膜症，うっ血性心不全：もちろん，はっきりとした心雑音があります．失神傾向があり，動悸がします．脈は速いことも遅いこともあります．夜に窒息しそうな感じになることがあります．
- ・狭心症：心臓の鋭い痛みが喉，首，左の腕から手に広がります．
- ・激しい動悸：左下に寝ることによって悪化します（左下に寝ると悪化するMODALITYをもつ多くのレメディは，心臓に親和性がありますが，Najaの場合は，成書に書いてあるのと逆に，実際は左下に寝ると改善する例が多く見られます）．会話をすると悪化します．不整脈により，衰弱感が出る場合があります．胸に圧迫感があり，胸骨の裏側が重く感じたり，胸に熱いアイロンを当てられているような感覚になることがあります．
- ・不整脈

- ・心肥大，心内膜炎
- ・心筋梗塞
- ・高血圧
- ・痙攣性の咳：努力性呼吸

■左側の卵巣嚢胞と痛み

■心疾患を心配するうつ状態

■片頭痛：左前頭部～こめかみが痛みます．

MODALITY

▶ 外気の中で歩くこと，患部を下にして寝ること，くしゃみ，喫煙など

◀ 寒い空気，生理後，きつい洋服（とくに首周り），アルコール，触られること，午後3時，乗り物に乗ることなど

Lachesisと非常に似ているところが多いのですが，Lachesisと違う主な点は，出血性や敗血症性ではなくて，心臓の弁の作用が特徴的な点です．

Naphthalinum ナフタリン $C_{10}H_8$ [アレルギー性鼻炎]

Naphthalene- $C_{10}H_8$

BACKGROUND

Naphthalinumは，分子量128.17，化学式 $C_{10}H_8$ で，揮発性のある無色の単斜形結晶，ナフタリンです．日本では，防虫剤に含まれている成分としてよく知られています．家庭用防虫剤には，ナフタリンが数%含まれています．

ナフタリンは，独特の臭いと味があります．融点 80.5°C ，沸点 217.5°C で，昇華しやすい性質をもっています．アルコール，エーテルに溶けますが，水には溶けません．

主な用途としては，防虫剤のほか，染料の中間物質や合成樹脂，爆薬，顔料などの原料に利用されています．

ナフタリンには，毒性があります．人の経口での最小致死量は，小児で2gと推測されています．健康な成人では，5～20gと推定されていますが，個体差が大きいです．とくに，ブドウ糖-6-リン酸脱水素酵素欠損症などの症例では，より少量で毒性の発現が見られます．

主な毒性は，血液中の赤血球が壊れる溶血作用によ

るもので，加えて粘膜を刺激し，泌尿器系の細胞障害をもたらします．発癌性もあると報告されています．

ナフタリンは，経口摂取された後，消化管から吸収されて，肝臓へ運ばれ，肝臓で α -ナフトール， α -ナフトキン， β -ナフトキノンに代謝されます．排泄は主に尿から行われます．そのほか，経皮，蒸気の吸入によっても中毒が起こっています．身近な例では，タンスの防虫剤の蒸気を吸い込んだり，衣服を着て，急性中毒を起こした例があります．

中毒の症状は，摂取量にもよりますが，摂取後すぐに消化器症状が現れます．次いで数日後から血液，肝臓，腎臓，中枢神経系の症状が顕著になってきます．主に次のようなものがあります．

- ・一般：発熱，疲労，倦怠感，発汗
- ・神経系：頭痛，めまい，痙攣，情緒障害，興奮，精神錯乱，意識混濁，失神，昏睡
- ・循環器系：頻脈，動悸，顔面紅潮
- ・呼吸器系：くしゃみ，咳
- ・消化器系：食欲不振，吐き気，嘔吐，腹痛，下痢
- ・肝臓：肝臓腫脹，溶血性黄疸，高ビリルビン血症